

2023年11月1日

全国農業協同組合連合会（JA全農）
全農物流株式会社
日本貨物鉄道株式会社

米専用列車「全農号」 11月から運行スタート ～鉄道へのモーダルシフトにより2024年問題へ対応～

全国農業協同組合連合会（代表理事理事長：野口栄、以下、JA全農）と、全農物流株式会社（代表取締役社長：寺田純一、以下、ZLC）と日本貨物鉄道株式会社（代表取締役社長：犬飼新、以下、JR貨物）は、2023年11月から米専用貨物列車「全農号」の定期的な運行を開始します。物流の2024年問題への対応として、鉄道輸送を取り入れ、米の産地である東北・新潟・北陸地方から東海・西日本の消費地への輸送ルートを確認し、米の安定供給に取り組めます。

「全農号」は、これまで計3回の試験運行を実施し、取引先からの発注の確保や、輸送中の米の品質確認など、定期運行化に向けた準備を進めてまいりました。

定期運行では、週末のダイヤを利用し、米の産地である東北・新潟・北陸地方から東海・西日本の消費地へ米を運びます。

定期運行の初列車は、11月5日（日）の夜に八戸貨物駅（青森県）を出発し、秋田、新潟、金沢などの各駅で周辺産地の倉庫からパレットやフレコンの形態で米の積込みを行い、6日（月）の夕方に、百済貨物ターミナル駅（大阪市）までコンテナ100基分（約500トン）の米を輸送します。

今後もJA全農、ZLCおよびJR貨物は連携して輸送ルートを確認し、米の安定供給に努めてまいります。



「全農号」輸送ルート